

評価項目 3	(ア) 成績評価、フィードバックは、シラバスに基づき、適切に実施されているか。 (イ) 成績分布に偏りは生じていないか。
参照資料	・成績分布（G P A ・得点）（科目群別・3 カ年） ・ALCS 学修行動比較調査（対象設問） ・その他参照した資料（)

《各部局による点検・評価》

【検証結果（全体概要）】

(ア)専任に関しては言語ごとに適切に実施されている。また中国語、コリア語では非常勤講師が担当するクラスも含め、一回生を対象とする選択必修科目では統一試験を行い、成績評価の均質化を図っている。しかし、非常勤講師が担当するクラスについては、全体会議などで強く依頼はしているものの、フィードバックの徹底、最終的な合否判決の統一は難しいのが現状である。

(イ)クラス間の成績分布については、(ア)に記したとおり非常勤講師間で若干の偏りがあり、言語ごとにそれを克服する努力が行われている。一方、言語間の偏りについては、特に一回生では言語によって評価にばらつきがみられるものの、言語別全科目の平均をみれば、不合格者率をはじめ大きな偏りはないと言える。

【成果が上がっている点】

(ア)非常勤講師を含めた全体会議によりある程度は是正。

(イ)言語間ではこれまで成績評価基準について申し合わせたことがなかったにもかかわらず、不合格者率はほぼ5～6%の幅に収まっている。

【課題となっている点】

(ア)非常勤講師全員に徹底することは難しい。

(イ)全体会議などを通じて不合格者数、不合格の理由などを確認し合うことで、偏りを抑えるべく努めている言語もあるが、結果に結びついていないかとなると難しい。また今後は言語間でも、成績評価基準をどうするかについて検討していく必要がある。

評価項目 4	(ア) カリキュラム上主要な科目には専任教員を配置しているか。 (イ) 非常勤比率の高いカリキュラムとなっていないか。
参照資料	・授業担当一覧 ・科目群別非常勤比率（3カ年程度） ・その他参照した資料（)

≪各部局による点検・評価≫

【検証結果（全体概要）】

(ア)言語コミュニケーション科目の場合、どれが主要とは言えない。初修外国語においては、上級回生は専任教員が担当するようにしている。英語については、選択科目の「英語Ⅱ」では、各科目で扱うスキルや分野に詳しい非常勤講師を配置している。「英語Ⅲ」の大部分は専任教員が担当している。

(イ)上述のように非常勤率は70～80%と非常に高い。

【成果が上がっている点】

(ア)特になし。

(イ)特になし。

【課題となっている点】

(ア)初修外国語の二回生以降の科目を選択する際、一回生時担当教員のクラスを希望する学生が少ない。そのため、当該教員が非常勤講師で上級回クラスを担当していないと、継続履修をやめるというケースもある。

(イ)科目数・クラス数に比べ専任数が少ないため、非常勤率は不可避免的に高くなる。

実施責任者からの具体的な向上・改善施策（案）

具体的な向上・改善施策（案）について

国際化の推進および外国語能力の向上は大学全体の目標であるが、現行の語学教育体制は限界に来ているように思われる。授業形態の見直しなどによる大幅なカリキュラム改革を検討するべきであろう。